

改訂版はしがき

本書は、アメリカで広く用いられている Early Childhood Environment Rating Scale-Revised Edition (=略称 ECERS-R) <直訳；幼児期環境測定尺度 改訂版>の全訳文および日本での使用にあたっての解説から構成されています。

ECERS [エカーズ] は1980年にノースカロライナ大学のテルマ・ハームス教授とリチャード・クリフォード教授によって初版のスケールが発行されて以後、多くの調査研究や保育行政、保育者養成と研修、保育の質の向上にと広く用いられるようになり、アメリカ国内で普及しただけではなく、現在では数か国語に翻訳されて研究用あるいは保育の質の向上のために複数の国々で用いられるようになりました。1998年には著者にデビィ・クレア博士が加わり、改訂版が発行されました。

私は2000年にこのスケールと出会い、原著を読み進むうちに、現在の日本の保育でもすれば漠然と情緒的に語られがちな保育の重要な構成要素がきわめて合理的に整理され、明確な概念化が行われていることに非常に魅力を感じました。2002年から2005年にかけて科学研究費補助金を受けてアメリカのノースカロライナ大学フランク・ポーター・グラム (FPG) 子ども発達研究所が主催するトレーニングコースを4度受講し、評定者 assessor としての研修を受けました。アメリカ全域から保育の指導的立場にある人たちが参加しており、著者による講義では活発に質疑応答が行われていました。また、休憩時間等には参加者間で情報交換が盛んに行われており、その真摯な姿勢に感銘を受けずにいられませんでした。また、その後の保育機関での実習と実習後の綿密な指導を通し、スケールの信頼性と妥当性について多くを学ぶことができました。

現在、わが国の保育所や幼稚園では「評価」が重要なテーマとなってきました。保育所では第三者評価の実施が進行中であり、各都道府県においては地域性に即した評価基準の作成も検討されつつあります。平成20 (2008) 年改定の保育所保育指針では、保育士あるいは保育所の自己評価の実施が明文化されました。また、同年には文部科学省より『幼稚園における学校評価ガイドライン』が発行されています。

このような状況のもと、『保育環境評価スケール』が「評価」の具体的な手立てとして活用できるものと訳者は信じています。アメリカで開発された評価基準ではありますが、文化・社会的背景の違いを超えて、乳幼児の保育に必要な普遍的な要素により構成されていることは、本書が熟読され、現場で実際に使用されることによって理解されるでしょう。

訳者は2007年より不定期ではありますがスケールの講習会を行い、ささやかながらスケール普及の努力を続けています。少しでも多くの人々の指示を得てこのスケールが現場で用いられ、保育の質の向上の一助となることを願っています。

2008年8月

翻訳・解説 埋橋 玲子